



熊本県版

No. 228

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

運動の基本

- 一、 果たたが戦争と暗黒政治を許さないために治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、 国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
- 三、 国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

「総選挙勝利、同盟躍進期間」を成功させよう

国賠同盟熊本県本部

国賠同盟県本部は4月12日、理事会を開き、中央本部が提起した「総選挙勝利、国賠同盟躍進期間（4月1日～5月31日）」を成功させるための方針を確認しました。

一、「総選挙勝利、同盟躍進期間」に全力でとりくみます

- ① 会員拡大、国会請願署名の自主目標を達成する
- ② 選挙活動の支持拡大と、会員拡大、国会請願署名を結合して進める
- ③ 会費納入、特別カンパその他、財政活動を強化する

二、今年の国会請願は5月12日（水）に行われます

熊本県代表として塩出美子さん（菊池市）を派遣します

今年の国会請願行動は、5月12日（水）に行われることになりました。コロナの感染状況が全国一様ではないため、必ずしも全都道府県組織からの参加は求めないとなっていますが、熊本県本部としてはご本人の意思も確認したうえで、菊池市の塩出美子さんを派遣することにしました。コロナの関係で会員の活動が思うようにできないこともあって全国的に署名が伸び悩んでいます。熊本でも、4月1日現在1,693筆で、昨年同日比1.172筆少なく、大きく落ちています。

塩出さん派遣には、こうした状況を抜本的に打開する起爆剤にする意味もあります。

そのため、「じぎの2つ」に全会員が取り組むことをよびかけます。

① 県目標5,000筆の達成めざし周りの友人知人に署名を訴える

② 50,000円の代表派遣カンパ(旅費、宿泊費)にとりくむ
みなさんのご協力をお願いします。

三、会員拡大ー全国大会までに200人に到達しよう

会員拡大では、熊本県同盟は、前大会(2019年6月…第39回)時は172人でしたが現在178人です。前大会時を上回っている16都県の中には入っていますが、この2年、一進一退で横ばいです。

新たな支部結成の中で会員拡大を図ります

熊本県同盟は今、全国的に見ても健闘中の県組織の一つになっていますが、そのきっかけになったのは2016年7月の人吉球磨支部の結成でした。その一年後、八代支部結成とつづきましたがこの2、3年、新支部結成はできていません。地域に根差した同盟活動という観点からも支部づくりは大事な活動です。

熊本県同盟は、熊本県内で3回上映の権利を確保するために30万円を目標に1枚1000円の「チケット」(来年の本上映の時、前売り券と交換できるもの)を販売していますが、現在、2回分を確保したところです。「チケット」の普及へのご協力、よろしく願っています。

国会請願署名、総数3,572筆に

コロナ禍で集会や会議もままならず、相手との対話で集める署名活動は、同盟員の皆さんも大変苦労されていることと思います。現在(4月24日時点)までの集計結果は、個人署名(黄色)3,450筆(目標5,000筆)、団体署名122筆(目標200筆)、合計3,572筆です。県同盟のここ数年の達成数をすでに超えています。

5月3日に塩出さんにも参加していただいて署名の最終集計をします。まだお手元に残っている署名用紙がありましたら、4月末日までにコモンにご返送ください。

目標には届かないかもしれませんが、最後まであきらめないで取り組んでください。

そこで県本部では、比較的まとまった同盟員がいる地域をあげて新しい支部づくりに挑戦することにしました。いま検討しているのは次の地域です。

① 菊池山鹿地域(現在12人)、② 阿蘇地域(同10人)、③ 天草地域(同9人)、④ 水俣地域(同7人)、熊本市(同7人)。

熊本市については「区」単位の支部づくりを検討する。すでに関係者との相談に入っている地域もありますが、5月末までの「躍進期間」中にいくつかの支部結成にこぎつけられればと思います。そしてその中で、新しい同盟員拡大が進むよう頑張ります。

四、映画『伊藤千代子の生涯』製作・上映運動を強めます

「チケット」(1000円)前売り券との引換券の普及・販売に協力を!

販売に協力を!

コロナ禍で製作スケジュールが大幅に遅れていました映画『伊藤千代子の生涯』が本格的に動き出しました。伊藤千代子の東京女子大の後輩になる竹下景子さんと、元前進座の名優嵐圭史さんをはじめ出演者も次々決まっています。目下の急務は、制作資金集めです。目標の8000万円に対して2000万円を超えたところで、急いで集めなければなりません。

「人新世の『資本論』」を読んで

最近のベストセラーの一つに斎藤幸平著の「人新世の『資本論』」があります。

人間の生命のよりどころである地球環境の悪化は急速に進み、誰の目にも無視できなくなってきました。地球温暖化、異常気象、大気・海洋汚染、生物多様性の喪失、放射能汚染、プラスチック問題、感染症の増大、地球資源の枯渇……、すべて避けて通れない深刻な問題です。

「人新世」という新語は、気候変動を問題にした会議で大気科学者によって名付けられ、20世紀半ばの前と後を明確に区別しました。20世紀半ばから人類によって地層に新たな層ができたといえます。放射性物質や石炭燃焼物質、人工的なプラスチックや重金属製品、コンクリートのがれきなどです。

これらの原因は、たった200年余りの資本主義のあくなき利潤追求にあり、使用価値からはなれた価値そのものの増殖を目的とする資本の論理にあります。賃労働者からの収奪、地球資源の乱開発は、戦前の治安維持時代の暴力的、無法な資本と国家権力の横暴さを見れば明らかです。

戦後もそこまで露骨には振舞えなくなってきましたが、地球全



体を見渡せば世界各地で、云わば治安維持法体制の暴力が資本を支えています。さらに地球の環境問題を見れば、地球は修復能力を超えようとしていることに気づきます。残された時間はあまりないといわれています。

この本の中で斎藤氏はなぜ『資本論』に立ち返る必要があるのか論じています。マルクスは古いという論調の中に、マルクスは「生産力至上主義」ではないかという批判や、環境問題は解決しないという批判があるという。しかし新たなマルクス研究によって明らかになったのは、『資本論』を完成させるため晩年のマルクスは自然科学の研究に没頭しています。しかしそれを十分に反映させる前に亡くなってしまいました。

斎藤氏は、『資本論』を「脱成長コミュニズム」という立場で読み返し、その構想を「使用価値経済への転換」、「労働時間の短縮」、「画一的な分業の廃止」、「生産過程の民主化」、「エッセンシャル・ワークの重視」の五つにまとめています。

関心のある方は本を読んでください。戦前の先覚者も今生きていればきつとマルクスに立ち返り確信をもって闘いに挑むはずです。

(関根 隆)

国会請願行動への代表派遣のためカンパを!!

菊池市在住の塩出さんを代表派遣します。万が一延期の場合も派遣を考えます。同封の振替用紙にてお受けします。「派遣カンパ」とお書きください。ご協力よろしくお願いいたします。

2021年春季号 (41号)

『治安維持法と現代』

4月30日発売

【主な内容】<巻頭論文>日本学術会議任命拒否と反憲法政治=小沢隆一、戦前のもう一つの学問統制・学問動員=萩野富士夫、拷問の時代を終わらせるために=前田朗 <情勢学習>菅政権の防衛政策一急浮上した敵基地攻撃能力=半田滋、3・11大震災から10年の福島=伊藤達也 <基礎学習>「新自由主義」とコロナ・パンデミック=友寄英隆、ジェンダー・ギャップ指数と日本社会の課題=清末愛砂 <エッセイ>没後70年・治維法下の宮本百合子=澤田章子、島崎こま子の”第二の人生”=山本隆、戦前の映画弾圧=羽瀨三良、日本の革命歌・労働歌-私の体験記=西田清、《研究報告》秩父事件と女性たち=鈴木義治、浅野晃『幻想詩集』を読む=入谷寿一★国会請願の紹介議員の名簿一覧

治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌 A5判定価1000円、申込みは中央本部・各都道府県本部へ。